

三方五湖学習

三方五湖日本農業遺産認定 記念シンポジウム

令和元年5月22日（水）、今年2月に三方五湖地域が日本農業遺産に認定されたことを受けて、記念シンポジウムがリブラ若狭にて行われました。シンポジウムでは、認定のための申請でご活躍された里山里海湖研究所の宮本康研究員が三方五湖の伝統漁業の内容を報告され、そののちに、「世界からみた三方五湖の伝統漁業の価値」と題し、東洋大学名誉教授の青木辰司先生が基調講演されました。青木先生は、農業遺産の認定の際に深く関わっておられ、三方五湖地域における伝統的な漁業システムの素晴らしさを強調いただくとともに、三方五湖地域における課題についてもご教示いただきました。



基調講演の後は、三方小学校の5年生児童による「私たちのマザーレイク 三方五湖とのつながりを考える」と題した学習発表がありました。三方小では、例年、鳥浜漁協の協力でフナ・コイの採卵に参加し、さらに、学校田では地元農家の協力で稲作の体験とともに田んぼでフナ・コイの育成にも取り組んでいます。当日は、その様子をいきいきと紹介して下さいました。

三方五湖 ニュースレター



No. 19
令和元年10月1日発行



アカミミガメ一斉捕獲（アカミミガメの計測）

目次

アカミミガメ（一斉捕獲、平成30年度調査結果） 1
 こどもラムサールクラブ 2
 三方五湖学習、自然再生関連会議開催状況、
 自然とめぐみTOPICS、三方五湖のなかまたち 3

自然再生関連会議等開催情報

- ◆湖と田んぼのつながり再生部会
 - ・令和元年7月29日…部会会議
 - ・令和元年9月14日…研修会
 - ・令和元年9月17日…市民参加型モッキング
- ◆外来生物等対策部会
 - ・平成31年4月6日…部会会議
 - ・令和元年5月24・25日…イベント
 - ・令和元年6月20日…部会会議
- ◆環境に優しい農法部会
 - ・令和元年5月9日、23日…部会会議

三方五湖の自然とめぐみTOPICS

協議会Facebookで情報発信しています!

三方五湖自然再生協議会では、活動や各種資料を三方五湖自然再生協議会のホームページとFacebookで紹介しています。ぜひご覧ください。皆さまの活動情報も、ぜひお寄せ下さい!

◇ホームページ（福井県サイト内）
<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/shizen/mikata-goko/kyogikai.html>

◇フェイスブック



問合せ先

- 福井県安全環境部自然環境課
 〒910-8580 福井県福井市大手三丁目17番1号
 TEL 0776-20-0305
- 美浜町住民環境課
 〒919-1192 福井県三方郡美浜町郷市第25号25番地
 TEL 0770-32-6703
- 若狭町環境安全課
 [三方庁舎]
 〒919-1333 福井県三方上中郡若狭町中央第1号1番地
 TEL 0770-45-9126
- 若狭町歴史文化課縄文環境室
 [若狭三方縄文博物館内]
 〒919-1331 福井県三方上中郡若狭町鳥浜122-12-1
 TEL 0770-45-2270

三方五湖のなかまたち

コウホネ（スイレン科）

- ・多年草、草丈：20～40cm
- ・ため池、水路等に生育
- ・6～9月に黄色の花が咲く
- ・和名「河骨」は、ゴツゴツした白色の地下茎が、骨のように見えることに由来。
- ・福井県レッドリスト：
 県域準絶滅危惧



このニュースレターは「令和元年度生物多様性保全推進交付金（環境省）」を使用しています。

アカミミガメの一斉捕獲を実施しました

令和元年5月25日（土）、三方五湖でのアカミミガメ（通称；ミドリガメ）一斉捕獲を実施しました。三方五湖では、平成30年度、環境省の支援を得て「三方五湖アカミミガメ防除実施計画」を策定しています。この計画では、近年増え続けており、農業・水産業や生態系に悪影響を及ぼすアカミミガメの生息を低密度に抑えることを目標としています。

この日は、一般参加の方も交えて、三方湖、水月湖、菅湖、久々子湖に分かれ、前日に漁協の皆さまや関係団体の方々により設置されたかご罟を引き上げました。仕掛けたかご罟は全部で35個で、小魚を誘引餌として一晩仕掛けられました。

今回の一斉捕獲では、全体で4個体のアカミミガメを捕獲して駆除しました。捕獲の際には、アカミミガメの他、テナガエビやハゼの捕獲もありましたが、これらの在来種は、その場ですぐに放流しました。

一斉捕獲では、もう少し捕獲できるか…と思われたのですが、参加された方々は、今回の一斉捕獲を契機に、毎年一斉捕獲に取り組むことで、アカミミガメのモニタリングと低密度化に取り組むことを確認しました。



前日に行われたかご罟設置の様子。縄文博物館で作業手順を確認した後、それぞれの湖に分かれてかご罟を設置しました。



一般の方も参加して行われた一斉捕獲。各湖で捕獲したアカミミガメを持ち寄り、計測して記録に残しました。記録の際には、専門家による細かな説明もありました。



平成30年度アカミミガメ調査結果

三方五湖では、平成30年度、環境省による五湖全域でのアカミミガメの生息調査と防除計画策定の支援がありました。

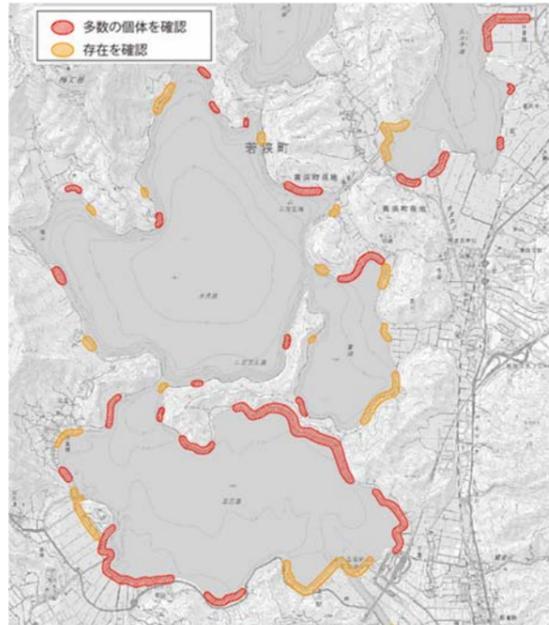
環境省によるアカミミガメの調査では、現地での捕獲確認調査と住民へのアンケート調査が行われました。これによると、三方五湖において、アカミミガメは昭和45年頃から確認されるようになり、10年前頃（平成20年頃）より近隣住民の目にもとまるようになり、生息数は年々増えていると推測されています。

現時点では、アカミミガメによる農業・漁業や生態系に対する目立った被害は見受けられません。しかし、漁業者には時折たくさんのアカミミガメが捕獲されて漁網が破れるなどの被害が発生したり、フナやコイの繁殖への悪影響などの懸念の声があがっています。また、湖岸の梅畑ではアカミミガメが産卵する様子が度々観察されており、梅畑を荒らすことも心配されています。

周辺住民アンケートでは、“アカミミガメの放逐経験がある”との回答もありました。すなわち、三方五湖へのアカミミガメの侵入経路は、ペットの放逐と推測されます。アカミミガメを“飼いきる”ことの重要性の普及啓発が足りなかったことが、調査報告書でも指摘されています。



アカミミガメ（通称；ミドリガメ）の幼体



三方五湖におけるアカミミガメの分布（平成30年夏期調査）。三方湖のほとんどの湖岸に生息しており、水月湖、菅湖、久々子湖にも広く分布していることが分かりました。
※日向湖は海水のため調査対象とされていません。

子どもラムサールクラブ 久々子湖の砂浜にすむ生きもの調査

令和元年6月29日（土）、子どもラムサールクラブ第2回プログラムが実施されました。子どもラムサールクラブは、今年で2年目。クラブ員は25人と、昨年より参加人数が増え、よりにぎやかになりました。

この日は、久々子湖に集合。南西郷漁協の協力のもと、久々子湖の浅瀬にすむ生きものを“調査”しました。調査した場所は、南西郷漁協が、シジミの増産のために再生した浅場です。調査では、クラブ員がスコップですくった湖の底土をふるいにかけ、ふるいに残った生きものの種類と数を記録しました。記録

の際には、ピンセットを使って、小さな生きものを一つずつつまんで整理していきます。

この調査によって、浅場造成をした場所では、シジミの稚貝がたくさん生息していることが確認されました。このことは、浅場造成がシジミの生息場所として再生されていることを示しています。それを導いてくださったのは、里山里海湖研究所の宮本研究員。宮本研究員からは、シジミ（ヤマトシジミ）の生態について教えていただいたほか、浅場として自然再生した場所には、シジミ以外にも、ゴカイ類をはじめとするたくさんの生きものが生息していることを、調査を通じて教えてくださいました。



クラブ員による生きもの調査。まず、南西郷漁協・武田組合長にもお手伝いいただき、砂を採取（左）。その後、ピンセットで小さな生きものを仕分け作業（中）。さらに、生きものの種類と数をまとめて、里山里海湖研究所・宮本研究員から解説をいただきました。

三方湖にそそぐ河川にすむ生きもの調査

引き続き、令和元年7月21日（日）に開催された、子どもラムサールクラブ第3回プログラムでは、三方湖にそそぐ別所川に集合。この日は、福井県淡水魚研究会でご活躍の松田隆喜さんに講師をお願いし、魚類を中心に観察をしました。

はじめに水辺での活動の注意点を聞いたのち、クラブ員それぞれがタモ網を持って、水辺をガサガサ…。そして、上流側と下流側に分かれて、はさみうちで魚を捕獲！…なかなかうまくいきませんが。それでも、クラブ員、そして一緒に参加された保護者の方も一緒に、皆で楽しく魚たちと触れ合いました。

魚を捕った後は、松田さんによる解説。捕獲した魚類を種類ごとにケースに分け、どんな魚がいたか教えていただきました。クラブ員は、皆、真剣にお話を聞き、多様な魚類がすんでいること、でも種類が減っていて自然再生に取り組むことの大切さも、学びました。



仕上げは“確認テスト”も！



三方湖にそそぐ別所川での観察の様子。クラブ員皆がそれぞれタモ網を持ち、石の裏や草陰に隠れる魚たちを探り（左）、さらに、クラブ員が上流と下流に分かれて魚をはさみうちにする作戦（中）。捕った魚は、松田さんから、一種類ずつ丁寧に解説をいただきました。